

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2373700281		
法人名	有限会社 ダイズ		
事業所名	グループホーム だいず		
所在地	愛知県一宮市開明字北葎野29-2		
自己評価作成日	平成21年10月24日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyou-aichi.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2373700281&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 TMCサポート		
所在地	愛知県名古屋市中区鶴舞3-8-10 愛知労働文化センター3F		
訪問調査日	平成21年12月1日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

7:00~19:00の間は玄関は施錠せず、入居者様やご面会の方が自由に出入りできるようにしています。敷地内に畑があり、花や野菜を植えたりと土と触れ合う機会を設けています。早期発見、早期対応で連携医と密に連絡を取り、健康管理に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

今回、管理者・職員から話を伺う中で、管理者からは「職員に恵まれて、今までやって来ることができた。職員にはいつも感謝している」と、職員からは「管理者に支えられ、働き続けることができています」という言葉を聞くことができた。日々の業務の中からも管理者・職員が互いに支え合い、よりよいホームにしていきたいという姿勢が終始伺うことができるホームである。また、ホームは外部との交流を大切にしており、ホームで行うだいず祭りを始め多くの地域行事への参加、また、ボランティア・実習生の受け入れ等を行い、地域に根ざしたホームの実現を目指した取り組みに努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関入口・各階フロア内スタッフルームに掲示し、職員は実践につなげる様意識して行動している。	管理者・職員は、ホームが掲げた理念をよく理解し、利用者本位の考えの下、寄り添う支援を行っている。また、玄関等に理念を掲示することで、来訪者への周知も図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の事業に参加(お祭り・運動会・催し等)し、又事業所の行事に気軽に参加してもらっている。野菜や花、手芸品を届けて頂いている。	町内会に加入しており、地域で行われる行事へ積極的に参加し、ホームの活動の理解を深めている。また、ボランティアの受け入れ等で外部との係わりを持つように努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内の公民館等で地域の人々に、グループホームの役割や認知症の方の支援の方法や係り方等を説明している。又、気軽に相談出来る場所として開放している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加者からの意見を助言をまとめ、職員間で検討、改善している。内容や結果をまとめ、次回運営推進会議で報告している。	定期的に開催される運営推進会議では、ホームの活動報告や職員が参加した研修会の報告等を行いホームの活動の理解を深めている。また、参加者からの意見・要望を受け止め、改善することでサービスの質の向上につなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者にも何事も相談し、助言を頂いている。熱心に相談に応じて下さり、ご指導頂けるので感謝している。	現在まで日常的に相談等を行ってきたことで、市担当者との「相談しやすい」関係がある。また、今後更に密接な関係構築のために取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	時々ミーティングの議題に取り上げ、拘束しないケアを徹底させる取り組みをしている。代替するケアについて検討し、手作り品で試みる等している。	管理者は身体拘束排除の弊害を理解しており、排除のための取り組みを行っている。玄関の施錠等を含め、日々のケアの中でも身体拘束をしないケアが行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	上記の様にミーティングで取り上げ、日頃のケアの中で見過ごさないか意見を出し合っている。新人職員教育にも取り上げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市や県の研修に参加した職員が中心になり、勉強会を開いている。家族から相談があった時は話し合いに応じ、協力できる体制をとっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時はできる限り複数の方に立ち会って頂く様お願いしている。時間をかけ理解・納得して頂けるまで丁寧に説明する様心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で意見、要望を発表して頂く。意見箱を玄関に設置し、気軽に投書して頂く。面会時フロア一職員が近況をお伝えし、家族の要望を聞く機会を設けている。	家族等が意見・要望を気軽に伝えることが出来るように玄関先に意見箱を設置している。また、家族来所時にも声かけを行い意見・要望の把握に努めている。収集した意見・要望に対し、迅速に対応を図りその後のサービスに反映することができるように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員ミーティングを月1回開いて各参加者に意見・提案を聞く時間を設けている。良い提案は即実行できる体制をとっている。	管理者は、職員からの意見・要望を受け止め、検討する機会を設けている。また、管理者・職員の信頼関係が厚く、日常的な業務の中で様々な意見交換を行い、管理者は職員が意見・要望を出しやすい環境作りに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	帳票で状況を把握すると共に、時々個人面談を行ない、心身の状況や仕事に取り組む心構えを把握し、給与水準等に反映させている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	時々、同テーマで全職員に考えや実際の取り組みを書いて提出する機会を与え、個々のモチベーション・力量の把握に努めている。研修はできる限り受ける機会を与えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所会へ出席する機会を作り活発に交流する事を勧めている。同業者からの訪問も歓迎しており、当施設に対する率直な意見を求めて、サービスの質を向上させる様努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前、面接の段階から時間をかけてゆっくり話し合う機会を設け、本人が困っている事や不安・要望を汲み取る様努めている。段階を経て、安心して入所できる様取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人同様、家族との話し合いにも時間をかけ、困っている事や不安・要望を聞き取り、今後のケアについて一緒に考え信頼関係を築く取り組みをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族より得た情報により、何を優先して支援すべきか見極め提案していく。必要に応じ、他のサービス利用も積極的に取り入れ対応する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の得意分野、残存機能向上につながる役割を見出し、本人と話し合いながら共に生活に関わっている関係を築く様努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	初期面談後、面会時の話し合いや電話・手紙による情報提供や相談により家族との関係を深め、協力・助言を得ながら共により良い支援ができる様努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも誰でも面会に来ていただける環境を作っている。家族・親戚等との外出。外泊がいつでもできる様対応している。	ホームでは日常的な外出の機会を設けている。また、家族の協力を得て、利用者慣れ親しんだ環境や人との関係を維持するように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	集団レクリエーションで利用者相互の和・協調性を図ると共に、趣味・嗜好の合う利用者同士の深い関わりの場作りにも努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等で終了した場合は、その後もお見舞いに伺ったり家族の相談に応じる様努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人・家族との十分な話し合いにより本人が希望するその人らしい生活の把握に努めている。	利用者本人の思いや意向を大切にしており、日常的に利用者の言葉に耳を傾け、意向の把握に努めている。また、聴き取った意向が実現できるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、直近の入院先、又はサービス事業者より情報を収集し、より正確に把握する様努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人をきめ細やかに観察すると共に、職員間で情報交換し現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の希望を重視し家族。職員と話し合いながら向上的な意見やアイデアを取り入れ、本人の自立支援につながる介護計画を作成する様努めている。定期的にモニタリングを行い見通しを図っている。	定期的なモニタリングの実施し、利用者の状態に合った介護方針を検討している。利用者・家族の意向・要望、職員の意見を組み込んだ介護計画を作成し、常に適切な支援が提供できるように努めている。	日常的な支援の内容が介護計画に沿った内容で提供されることが重要であることから、現場職員へのケアプランの内容の周知徹底を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は細分化して記録表に記入しケアカンファレンスの情報源として活用している。又、残職員が情報を共有し、必要時、家族や医師に提供している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	緊急時の対応は職員配置を重厚にして、本人・他利用の安全に努める。近医への受診は管理者等が介助する等、柔軟に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の人々との交流や近くのコンビニ、スーパーへの買い物を楽しんで頂いている。公共施設(役所・美術館・歴史資料館・市民会館)へ出かけ催し物を楽しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	近くの医師と提携し、かかりつけ医として月2回の往診を受けている。その他緊急時や他医療機関への紹介等、医療面総ての相談窓口として事業所と信頼関係を築いている。	月に2回、ホーム提携医の往診がある。また、提携医との関係を密にすることで、利用者の緊急時・急変時の対応の確保・確立ができており、利用者・家族の安心・安全につなげている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月2回の往診時には、本人の心身の状態を詳しく伝えている。それ以外でも気になる事は電話等で連絡し適切な指示が得られる様支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は時々見舞い、病院スタッフより現況を聞いている。又、退院時にはケアカンファレンスに出席し退院後のケアについて指示を受ける様努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に本人・家族の思いを聞き取り、終末期には再度確認し何度も話し合う場を設定している。医療機関との連携を密にし安楽に過ごして頂ける様努めている。	ホームは早期から重度化や看取りを支援をする指針を作成し、明文化している。また協力医療機関との連携を確立し、利用者・家族の意向や希望に沿って対応が出来るように職員間の連携を円滑に行えるように整備している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の救命救急士より定期的に講習を受けている。緊急対応マニュアルは、誰もが目に付く所に置き対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の対応について日頃より話し合い、誰が何をすべきか全職員が心得ている。地域の方々には協力を得られる様普段から交流を密にしている。	定期的に防災訓練を実施し、職員の防災への意識を高めている。また、救命救急等講習を実施する等防災に対する高い意識がうかがえる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の入居前の生活暦を把握すると共に、入居後本人から得た情報や職員が感じ取った情報を大切に共有し、その人の人格を尊重し誇りを守る対応をしている。	職員は利用者一人ひとりの特性・性格をよく理解・把握し、適切な対応に努めている。訪問調査日の視察でも、排尿を訴える利用者に対し、他の利用者の関わりを意識した、さりげない言葉での対応があり、日常の適切な支援がうかがえた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に利用者と話す様心がけ、本人の思いや希望が表出できる雰囲気作りに努めている。時間をかけてゆっくり接し、できる限り自己決定できる様働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や入床、食事にかかる時間等は一人一人のペースに添って合わせている。その日の過ごし方は朝の天気具合によってそれぞれの希望を聞いて、散歩・買物等を実施している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容院に出かけて自分の好みを美容師に伝えカットしてもらっている。夏は浴衣を着る等、季節のおしゃれを楽しんで頂く様支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立の段階から参加して頂き、皆さんの好みを取り入れる様にしている。それぞれの力が活かせる場を設け職員と一緒に楽しみながら食事作り、片付けに参加してもらっている。	訪問調査日の視察では、利用者が職員と歓談しながら食事をし、後片付けを行う姿があった。職員は利用者のペースに合わせて、随時声かけしながら支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを第一に考えながら皆さんの好みを取り入れ、一人一人にあった量、やわらかさで提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、必ず本人の力に応じた援助で口腔ケアをしている。歯の状態もチェックし必要な時は歯科受診を援助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で一人一人の排泄状況を細かく表し、全職員で共有し支援している。昼間は全員トイレで排泄して頂く様努めている。	職員間において、利用者一人ひとりの排泄パターンを「トイレチェック表」において把握し、尿意、便意を自ら判断する事が難しい方には、トイレまで誘導し、自立に向けた支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘について勉強会を開き職員の理解を深めている。その上で一人一人の状態をチェックし、飲食・運動面で個々の対応をして予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人一人の生活習慣を尊重し、入浴方法や時間を自由に選んで頂く様支援している。プライバシーを守ってゆっくり入浴して頂ける様支援している。	入浴に関しては、利用者のペースに合わせて毎日入浴できるよう支援している。入浴中は職員も介助、見守りに徹し、安全に快適に入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活習慣を尊重し、入床・起床時間配慮して支援している。その時々体調をチェックし、必要な時はゆっくり休息して頂く様支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が一人一人の服薬内容を理解し、きちんと服薬して頂ける様、その人にあった方法で支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の生活歴と現在の状態を考慮した上で、適切な役割を本人と一緒に選び、実行できる様支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩はできる限り毎日実施し、その時の状態によって参加できる様努めている。又、季節のお花見・お祭・文化的催事にも、地域の人々や催事者の方に協力を得て参加できる様支援している。	日常的に散歩・買い物等外出の機会を設けている。また、利用者・家族の外出支援にも努め、要望時には喫茶店等へ外出できるように調整している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は総てお預かりして管理しているが、買物の時はその人の希望や理解力に応じてレジで見守りながら支払って頂く支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば理解力の程度によって介助し、家族。知人と電話できる様支援している。手紙や切手や封筒を買う所からポストに入れるまでを一緒に行い、満足できる様支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掃除やお花を摘んで飾る、壁に飾る貼り絵や折り紙の作品を全員で作る等、一緒に季節感のある空間作りができる様支援している。	リビングは広く、利用者がゆったり過ごすことができる空間が確保されている。管理者からは「この広い空間をうまく使って、過ごしやすい場所にしていきたい」という意見もある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーは1人掛け・2人掛け・3人掛けを設置し、その時の気分や複数での交流に自由に使える様にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものやなじみのものを持ち込んで頂いて居心地良く配置し、安らぎのある居室ができる様支援している。	居室には、利用者のなじみの物品が多く持ち込まれ、それぞれが個性あふれる居室となっている。利用者が安心して過ごせる居室作りへの積極的な取り組みがうかがえる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全第一に考え環境整備に努めている。廊下・フロアーは広く設計され、車椅子の自走も自由にできる様にしている。又、室内歩行練習も安全にできる様に工夫している。		

外部評価軽減要件確認票

【重点項目への取組状況】

重点項目①	事業所と地域とのつきあい（外部評価項目：2）	評価
	町内会に加入しており、地域で行われる行事へ積極的に参加し、ホームの活動の理解を深めている。また、ボランティアの受け入れ等で外部との係わりを持つように努めている。	○
重点項目②	運営推進会議を活かした取組み（外部評価項目：3）	評価
	定期的開催される運営推進会議では、ホームの活動報告や職員が参加した研修会の報告等を行いホームの活動の理解を深めている。また、参加者からの意見・要望を受け止め、改善をすることでサービスの質の向上につなげている。	○
重点項目③	市町村との連携（外部評価項目：4）	評価
	現在まで日常的に相談等を行ってきたことで、市担当者との「相談しやすい」関係がある。また、今後更に密接な関係構築のために取り組んでいる。	○
重点項目④	運営に関する利用者、家族等意見の反映（外部評価項目：6）	評価
	家族等が意見・要望を気軽に伝えることが出来るように玄関先に意見箱を設置している。また、家族来所時にも声かけを行い意見・要望の把握に努めている。収集した意見・要望に対し、迅速に対応を図りその後のサービスに反映することができるように努めている。	○
重点項目⑤	その他軽減措置要件	評価
	○「自己評価及び外部評価」及び「目標達成計画」を市町村に提出している。	○
	○運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されている。	○
	○運営推進会議に市町村職員等が必ず出席している。	○
総合評価		○

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

今回、管理者・職員から話しを伺う中で、管理者からは「職員に恵まれて、今までやって来ることができた。職員にはいつも感謝している」と、職員からは「管理者に支えられ、働き続けることができていく」という言葉を聞くことができた。日々の業務の中からも管理者・職員がお互いに支え合い、よりよいホームにしていきたいという姿勢が終始伺うことができるホームである。また、ホームは外部との交流を大切にしており、ホームで行うだいた祭りを始め多くの地域行事への参加、また、ボランティア・実習生の受け入れ等を行い、地域に根ざしたホームの実現を目指した取組みに努めている。

1. 外部評価軽減要件

- ① 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」及び「2 目標達成計画」を市町村に提出していること。
- ② 運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されていること。
- ③ 運営推進会議に、事業所の存する市町村職員又は地域包括支援センターの職員が必ず出席していること。
- ④ 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」のうち、外部評価項目の2、3、4、6の実践状況（外部評価）が適切であること。

2. 外部評価軽減要件④における県の考え方について

外部評価項目2、3、4については1つ以上、外部評価項目6については2つ以上の取り組みがなされ、その事実が確認（記録、写真等）できること。

外部評価項目	確認事項
	(例示)
2. 事業所と地域のつきあい	① 自治会、老人クラブ、婦人会、子ども会、保育園、幼稚園、小学校、消防団などの地域に密着した団体との交流会を実施している。 ② 地域住民を対象とした講習会を開催若しくはその講習会の講師を派遣し、認知症への理解を深めてもらう活動を行っている。
3. 運営推進会議を活かした取組み	(例示) ① 運営基準第85条の規定どおりに運用されている。 ② 運営推進会議で出された意見等について、実現に向けた取組みを行っている。
4. 市町村との連携	(例示) ① 運営推進会議以外に定期的な情報交換等を行っている。 ② 市町村主催のイベント、又は、介護関係の講習会等に参画している。
6. 運営に関する利用者、家族等意見の反映	(例示) ① 家族会を定期的（年2回以上）に開催している。 ② 利用者若しくは家族の苦情、要望等を施設として受け止める仕組みがあり、その改善等に努めている。 ③ 家族向けのホーム便り等が定期的（年2回以上）に発行されている。

(注) 要件の確認については、地域密着型サービス外部評価機関の外部評価員が事実確認を行う。